謹テ建言ス臣曾テ近日之ヲ聞ク外務大臣大隈重信ハ我国許盟各国ニ向テ条約改正ノ事ヲ果サントスルニ急ナルノ風ニ改正ノ方策ヲ立テ、之ヲ各国在留ノ公使ニ送付シテ之ヲシテ各其国政府ト議定決定セシムルノ道ヲナシ亜米利加合衆国孛漏西国ト既ニ改正ノ議ヲ済シ且新条約ニ調印スルニ至リ而シテ其他大不列顛国仏蘭西国露西亜国澳地利洪噶利国和蘭国白耳義国瑞西国西班牙国葡萄牙国等ニ対シテハ或ハ方サニ之ヲ徒スノ央ナル或ハ時ヲ以テ将サニ之ヲ徒セントシ擬シ然ル其事ヲ急ニセント欲スルカ似シトモ其レ條約改正ノ事タル実ニ十有余年来ノ問題也誠ニ従来ノ條約ヲ改正シ外国人ノ法権ヲ我日本国内ニ存セサルノ条款ヲ削リ并ニ輸入物品ニ課スル税ノ税権ヲ把テ之ヲ我国政府ニ収メ以テ国権利ヲ展ヘ以テ一国ノ体面ヲ正ト皇上陛下ノ宸翰ニ所謂「万里ノ波濤ヲ拓開シ国威ヲ四方ニ宣布」セントス是固ヨリ陛下ノ期スル所ナリ人民ノ望ム所ナリ而シテ今回大隈外務大臣ノ方策ニシテ許盟各国ト議定シ或ハ将サニ議定セントスル所ノモノ果シテ能ク此ノ如キノ目ヲ得ルヤ否臣等甚タ疑訝ス因

ヤウヤ開カンヿヲ臣土ハ其ノ一旦外務大臣ヨリ外務大臣カ方ヘキスハ所ノモノ如何ヲ
聞クヿヲ得又陸ノ外国公使ト談ヲシ相即チ所ノモノ如何ヲ知ルヿヲ得ハ然モ之ヲ遠ミ
外国新丁業ニ記載スル所ノモノヲ閲覧シ見ルヿヲ願ヒ且ツ飛脚ヲ所ノモノヲ傳ヘ
スンニ輙チ以テ之ヲ宣ンス
新條約ヲ結ビシ後條約国ノ臣民ハ何人ヲ問ハス日本ノ法律ヲ奉シ之ニ服
従スルハ日本国中何ヒ所ニモ自由ニ旅行ニ住居シ又何ヒノ所業ヲモ自由ニ商賈
ヲナシ不動産ヲ所有スルヿヲモ得ヘシ
トノ事ヲスラシ
新條約実施後数ケ年間ハ現在ノ居留地ヲ在シ他ノ外人ハ法権ヲ行フヿ
得ヘシ
トノ事ヲスラシ又條約ニモ亦ハ明ニ其ノ外キモノヲテモ地文其條約ノ改正ヲ協ノ分
為ニハ更ニ又外交上ノ文書ヲ添スルヿヲ為シ而シテ今見外交上ノ文書ニハ之ニ勘スンニ
新條約実施十三年間大審院ニ外国人ヲ係ルテ之ヲ裁判官ト為シ外国人被告ヨリ
裁ノ事ハ其外国人ニシテ裁判官ヲモ外国人ニシテ裁判官ヲモ内国人ニシテ裁判官ヲモ
モノ多数ニ到達セシメラレシヿヲ或裁判スベシ
トカヲ事ヲスラシ
展而地ノ物産ノ変ヲ為ス者ハ年月民法ヲ実施シ又更新限一年前ニ之ヲ
外国文字ニ飜訳シテ又改正條約国ニ通知スヘシ
トノ事ヲ以テ其ノ間ノ所果ヲ見実ヲ得タリト為ス乎或ハ未ノ見実ヲ得タ
為ニ乎臣土国ヲ主ヲ自知スルヿ能ハス臣等ハ今ニテ之ヲ為ヲ上
又同ノ所ニシテ尺ノ見実ナキモノトスレハ蓋シ国家ノ大度ナリト臣土ハ深ク臣土ノ間ノ
所ニ在ル感情ノ点ヲ以テ恐シク悠々日月ヲ経過シ嘆口総論ヲ以テ見事ヲ改ム
公論ニ国ニ待ツヿヲ得ンヤ而ノ臣等ニ其ノ近日ニ聞ク所ヲシテ果ヲ大過ヲ
カラシムルハ徒ニ是日本帝国ノ為ニ哀ム可キノ必報ナリト臣土ハ焉ヲ奇ト謂ト

宮内庁書陵部

ノ地高ニ帰シテ平生ニ少シク忠臣義士ノ表気坐ニ国家ノ難ヲ待ツテヲ得ベケレヤ若夫レ臣等ヲシテ帝都ノ間ノ臣等此時ニ当ツテ安ンゾ克ク奮ハ
徒ニ謟倒セシムルノミナラシメハ陛下ヲシテ臣ニ下ラシメ知ラシメ言フ所ヲ聞カシムルヲセシ日臣等
乃チ日ヲシテ之ヲ奉セシ若夫レ知テ而シテ言ハサル罪ニ陷ラントス臣ノ死スト雖モ若ク
然ハ所ナリ臣ノ之ヲ少シク言フ所アラン
其一ニ曰ク外国人ヲシテ日本ノ裁判官ニ任命シ之ヲ大審院ニ備員セシムルノ事ヲ
宜ク之ヲ改メ新ニ直ニ条約書面ノ正文ニ明揭スヘシ而シテ外交上文尾ニ
紛約文所ニ之ヲ改セヨ実ニ国家ノ体面ノ辱シムルヲ更ニ又日本帝国憲法
ヲ蔑如スルノト謂ハサル可カラス何ヲ以テ何ヲ国家ノ体面ノ辱シムルヲ
目ノ権ヲ十国ノ公権也ト雖モ以テ権ハ特ニ本国人民ノ為メニ所有ス
外国人ニ至テハ則チ一毫モ之ニ與カルヲ得ス是宜ニ二国ノ通則也ト雖
キノ左ノ如ク也ト之ヲ改メテ内国ニ在リ敢テ一毫モ外人ニ与ヘス

アラス物ヲノ本義ヲ以テ称スルヲ得ル耶若夫レ公権ニシテ唯リ内国人ノ之ヲ
與ヘ非ス外人ニ限ルモノニ之ヲ与ヘ本国ノ体面ヲ害スルヲ無シト謂フ
ヘケンヤ何ソヤ日本帝国憲法ノ英祖ヲ以テ夫レ憲法ヲ以テ
曰リテ日本臣民ハ法律命令ニ定ムル所ノ資格ニ応シ均シク文武官ニ任セラレ及
其他ノ公務ニ就クヲ得レト日本帝国憲法ニ此條アリ乎ハ日本臣
民ニ非ト者ヲ文武官ニ任シ及其他ノ公務ニ就カシムルヤ而シテ外国人ヲシテ
司法官ニ当ラシムル天皇ノ名ヲ以テ勅令ヲ以テ行ハシメシトス是之レ憲
法ヲ蔑視スルノト謂ハスシテ何ソヤ蓋シ條約ノ改正ヤ人心ノ秋廟堂ノ
右同之ヲ言ヘリ赤山林ノ人民ヲ之ヲ言フ而シテ條約改正ノ声如雷ノ如ク東西
トシテ風ニ靡ク之ヲ変ス人ノ何ソヤ法権ノ在スルヲ知ラス
権ノ布セサルヲ之ヲ見ルヲ以テ條約改正セサルヲ以テ之ヲ然ルヲ何ソヤ
條約法権ヲ損排セント欲ラ而シテ何ソヤ代フルニ外人ノ裁判ヲ以テセント欲ス

類。

分人に假に日本の司法權を分ちたと雖とも其人民に百年の事にてやはり治外法權は本邦一国の公用せしの結果なれとも而も分人民合議制を設けるものはこれ全く
スポイル
而の狂且おのれ日本の司法權に参與せしめ噫其民合議制の
無益なる事實を以て外務大臣等の出張を待
代つて紙を 臣書ノ十と之 其ノ意高に解せざる所なり望むや臣等向ふ所を今
スポイル
国の政の草案の外に修飾を加へ治外法權を撤去
すべき事の外に更に別段の期限アリて存スト云ふ所なり
其二に曰法典の編纂なり之を宣施スベキ前稿の分国政府と協議スト
ノ事なりと雖も実際に於ては未だ修約書の正文に記載スベキ事なるに
分交ノ文書に拠り約束スベキ所なるを曰ふ所なり一国の
自由の富強なるものと謂はんか可なり然れ共一国の公法ノ
一国の公権の有ること敢て分人の為めに大右せられて無かるべからず而して
国益と其国の為めに法を制し一国の主権以て之を為す所なり
天下偶まこの邦に能しかるに其国の法を制する事最
も外国政府に対して猶且つ之を実行スベキ前に外国政府と
協議スベキの事を約束スベキ事なり去し法典の編纂スベキ事
すれし今日の法を編纂スベキ急務なるを知ること
しは則ち編纂やいと編纂スベキ如し編纂スベキ
新本国の自由に在りて存せしめ然れども何ぞ独りを日本帝国のみに法典
編纂の事を外国に仰ぐ如きを以て法典
に訳して外国政府に送るの名に謹て其書を外国の文字
の字句の是非を論ずるに至りて下云フ事を約せしめ国家独立を敬して一国自由を
失ふ事なしと雖ども

其三に曰今ニ法を修飾スベキ法典と共に近き年月分国人

於ル足下ノ予ヲ日本国ニ於ル平素其忠勤ナルヲ信ズルノ中ノ人ナリ予ハ

ヲシテ日本全国何ノ所ヲ問ハス自由ニ不動産ヲ所有セシムルトノ事
ヲシテ宜ク之ヲ其ノ日本ノ国利ヲ捨テ国害ヲ拒ムト謂ハサル可カラス就中
此地ノ所有セシムルヲ著シキモノトス夫レ土地ハ一国ノ由テ以テ完全スル
所ノ一国人民ノ由テ以テ息ム所ナリ噫山豆何物ノ在ルアリテ再ヒ言フ
事大ナルモノアランヤ茲ニ一国アラシテ他国ノ分国ト交際スル司法
ノ権モ完全ニ本国ノ政府ニアリ収税ノ権モ完全ニ本国ノ政府ニアリ外国人ト雖モ
其国ニ来ルハ其国ノ法律ニ服従セサルヲ得ス輸入物品ニ課スル関税ト雖
モ之ヲ高下シ之ヲ賦課スルハ皆其本国政府ノ自由ニアリ乃チ分国ニ対シテ譲与スル
ハ所ナリ極メテ多大ナルカ如クニシテ而シテ分国ニ対シテ不動産ヲ所有セシムル
カ如キニ至リテハ来リ輙チ之ヲ肯ンセサルハ理アルニ似ルナリ之ヲ肯ンセサル国
利ヲ失フ所アルニ似ルモ然レトモ国祖祖ノ所アルニ似ル然レトモ亮然トシテ危害憂
惧ノ其間ニ在ルアルニ似ストイヘトモ苟モ然ラス

同碑同胞或ハ之ヲ為ニ害セラレンコトヲ恨ム之ヲ止ムト雖モ繊毫義憤
ヒ理義ノ徴ヲ為スヲノアルニ似ルナリ就テ考フレハ日本帝国ノ如キ実ニ事情
ノ在ルアリテ来リ外人ニ対シ不動産ヲ所有セシムルヲ得ヘカラサルナリ夫レ今
日ノ日本ハ如何ナル日本ナルカ法律備ハラスシテ得ス経済整ハスシテ得
ス人事業ニ安ンスルヲ得ス地便定マラスシテ得ス社会秩序其ノ秩序ヲ得ス人民ハ総合統一ヲ得ス人事憲法ハ已ニ
発布セラレタリト雖モ国会ハ未タ開ケス市町村制ハ統一実行スルノ期ニ至リタリ
ト雖モ未タ之ヲ刻ス若シ其レ今ニシテ已ニ実行スルトキハ
雖モ幸セニ有用ナル猶其レ伝ヲ得ス
民法未タ頒布セス商法未タ実行セス治郷ノ制度行ハレス改革セサルヲ
治般ノ問題ハ未タ講究セサルモノ多シ如斯ニシテ土地所有権ヲ解放ノ
様堀事業ヲ尽ノ之ヲ挙ケテ外人ニ許スヲ妨ケサル乎土地ハ外ニ地

祖ノ改正ニ更ニ之ヲ行ハンカ為メ宜ク経費ノ軽減ニ早晩之ヲ行ハンカ為メニ地租
之ヲ改正シ経費ヲ之ヲ軽減シ地價表動セシメ又セリ矣然ルニ之ヲ地租ヲ改正
シ経費ヲ軽減シ地價表動ヲ失シテ徒ラニ人民ノ財産ヲ失ヒ之ヲ如何ト為ス
地ニ入ラシメ自由ニ又動産ヲ所有スルヲ得シメ外人等賦本大ナリ外人
等頗ル慮隔シカラサル彼等ノ為ニ雇役セラルヲ又ノトナシ然ル此ニ至ル
ハ我国人ハ往々ニ穴新
ルニテ本来ヲ利益アラシメ啓立外人ノ為ニ之ヲ大学ハ我国人ハ往々ニ穴新
設ニ忠勤スル者トナシ忠ヲ之ヲ懼シ又重キヲ之ヲ懼シガハ(カンヤ)或ハ云ン
外人ノ内地ニ就テハ土地ヲ購買スル者ノ事ハ少シテ之ヲ
ナリカハ(ニト)雖カアラ然ノ之ヲ知ル條約ハ
今ニテ之ヲ改正スルニ当リ外人ヲシテ自由ニ又動産ヲ所有セシムカ如キハ極メ
テ猶更ニ失スルノ甚シキ者ト之ヲ謂ハン

又言ヘ之ノ外人ヲシテ自由ニ又動産ヲ所有スルヲ得セシム甚タ秩序ヲ紊礼スル
業務置ケリ此ニヤ大隔外帝大臣ノ方案ヲ改正ノ上ニ行ヒ
ル日ニ接ス雖外人ノ為ニ謀ル所ノ輸入物品ハ陸海ノ税権ヲ
我ニ服スルノトスルヲ以テ是税率ノ変更ナリト傳ヘ
分日本ノ権利ヲ張リ日本ノ自由ヲ害ハ日本ノ利益ヲ増加スル者ハ則チ
其ノ号カヲスト云フ之ヲ行ハンカ為ニ
外人ニ所有セシム同利ヲ授ケ同盟ヲ招ク嘉ニ斯国ヲシテ隔
ナモ亦ン一昭ヲトシテ外ヲ睦ヘシ明ラカニ笑何ノ支シ思ハン(ケン)ヤ或何ノ
史レ思ハン(ケン)ヤ以上ノ三件是レ是臣等ノ最モ驚異スル所ナリ臣等
ノ如カ為ノ所豈唯ノ上ノ三件ニ止マラン(ント)謂フ(ハン)ヤ臣等再ノ所ヲシテ書ノ
是ノ宣ノ胃ル(ル)ヲ又ノトナシ初ヒノ臣書ヲシテ清細縷密ニシテ之ニ対スル所ノ意
是ノ上陳スル(ル)ノ傳セシメナハ而カシテ是言ヲ夢ル其等ノ事ハ事更ニ

是歟とすべし其概不異とす故に言ハスして言ハんかなを而すとスに非ス
以上三件是し其を多くハ三ヒ七カ八ヘカラカ所ハ乱すハ
ミ陛下をフこヲ宣セサル異リハ陛ノ之ヲ察セヨ
若し夫し他ノ事ハ始テ陛ノ御セサルに附スル而シテ上文分国人ノ大審院ノ裁判
に任命スル事ハ法典編纂ヲ外国政府に約シテ之ヲ実施スベノ
為必ス外国政府に通知スベノ事ハ近々ノ年ノ内ヲ分人ヲシテ自由
に文部省ヲ於布スヲリ間セスハ事ハ九ノ先ノ三件ヲシテ年ノ條
約改正ノ上に行ハしこナス文書往復ノ上に行ハ云日本帝国ノ大権ヲ如何セ
ンヤ日本帝国ノ體面ノ如奈センヤ日本帝国ノ命脈ノ如奈センヤ恥辱
を之ヲ自ネテ軽侮急我に然ハ[illegible]ラントス抵宜豈之ヲ[illegible]
患急我に然ハ[illegible]ラントス噫豈恢セサンヤ[illegible]
[illegible]信伯ノ外務大臣ノ條約改正に関シテ

ノ任大隅重信伯に在ハニアラスシテ井上馨伯に在リ先ノ時オツテ井上
大臣カ千改ノ条文ハ[illegible]ノ夏條約ノ改正スハノ事ヲ我国在留ノ
各国公使ト会議仮調印ニ至ルノ上に行ハントスルヤ井上大臣ノ[illegible]
ノ唯夏衣ノ異ニスルノニ非ス夫し井上大臣ノ修約改正に関シテ
為カレトしまん所ノモノハ天下国人皆是ハトシテ朝廷有司ノ
間ニ猶疑ヲ為ス者アリ当局者之ヲ軍ニテノ時ニ会議中止に帰し
井上大臣ハ外務ノ任ヲ去リ国内沟々ノ然に止息しまんとし大隅大臣
ハ井上大臣に代ハリ改正ノ任ハ自ラ担ハ自ラ解ハ井上大臣
ノ為し所と全ク同ジカラス一ハ井上大臣ノ一ハ各国公使
ヲ命シテ其之ヲ議し一ハ各国ノ主任者に就テ各別々に之ヲ議し一ハ二
年ノ前ヲ以テ之ヲ議し一ハ二年ノ後ヲ以テ之ヲ議ス然シテ改正ノ要領ハ大

於天皇陛下ノ事ヲ日本国に於テ平素其忠節ヲ信ズルノ中ノ人リ事ハ

是ナキモノトスレハ臣等ハ唯其必ヲ改メテ直骨ハ則チ前日トニヲ合フシ唯其
改ヲ畫シテ其体ハ則チ前日トニヲ一ニスルモノニ可リ然シ手ヲ拍テ善ト称
ヘンヲ恐オハ也 蓋シ以ハ 皇上ノ聖意真ニ亦此ニ在ラン寄ニ考ヘ二審ニ
衆議其ニ如此ニ在ラン臣等ハ唯大隅大臣ノ為ス所ノ如キ大ヲ量シ久ク陛下
ニヲ熟計セヲ北異ノ速カニ其所ヲ卜シ給テ自ノ事迹ニ綴テ百年宇社ノ
憂ト為ラシトスルモノヲ刪正スベシ吾ハ今日ノ條例ハ固ヲ改正セ
カルカ為ニ然ルニ改正セカル所ノ不ストシテハ法外法権在ルハ十ノ例関綱
権有セカルハ十ノ皇ニ此ノ如キ事アリ是ヲ以テ之ヲ改正セカルヲ不ストシテ然
ハ則チ之ヲ改正スルニ果ノ是ノ在リ以テ今ノ所謂改正セカルヲ不ストシテ所以ヲ改
正シ国権国ヲ以テ振張スルニ足シ国体国ヲ以テ
正シ利益国ヲ以テ均ス人ヲ得ル者ト雖ハ国ヲ以テ
陽ニ而ヲ却テ益国権ヲ縮メ国体ヲ傷ノ国体ヲ辱ノ国益ヲ減スカ
如キ者ニ至ル所ノ改正セカル所ノ所ノ改正セカル所ノ膠ニ柔カカ如キ者ニ非ス
而カシテ時ヲ以テ改正ノ事ヲ果スヘキ今ニテ一ヲ改正ノ事ヲ為ス所
陛下之ヲ公ノ有効期限方ヲ別度ニ非ルヲ以テ之ヲ改正スルヲ
得ハカラサルヲ以テ臣等ハ是ヲ以テ之ヲ懼ル大隅大臣ノ方ヲ我條例改正ノ上
ニ行ハシテ日本帝国ノ名国ヲ以テ活シ宇社百年ノ憂国ヲ以テ賜カン
ヲ冒ス憂ヲ堪ヘカラン也此書ヲ奏シ謹テ臣等ノ所見ヲ
上陳スル所以ナリ陛下其ニ久ク英武ニ在ニテ之ヲ陳
思シ之ヲ水圏ニ蓋シハ大隅分部大臣カ條例改正ニ関シテ見サル所ニ為カン
トスル所ノモノ矯正シ易シ其已ニ調印スルモノアリ陛下之ヲ排シテ北
海ヲ北ルニ附シ幸ニ幸ノ調印セサルモノハ速カニ之ニ命シテ従シカ如ク
修例ヲ結ヲ如ラシメンヲ此書臣等ニ於テ考ヘ臣等カ言ハント欲スル所ノ
モノヲ盡シタルヲ以テ名実詳ニ所ノ文字ニ亦至ツテ拙ナリト雖モ考ヲ
聲

於云足下ノ平ヲ日本国ニ於ノ平素夏忠節ナルヲ信スルノ中ノ人ナリ平ハ

一トシテ血誠ノ溢湧シ胸襟ヲ赤雨霧天ニアラハレシノハアラス伏シテ
望ムラクハ陛下幸ニ採納シ給フ所アランヲ 謹ム 聖
陛下幸富ノ至リニ任フルナシ 誠恐誠惶頓首百拜

明治二十二年七月

宮内省図書寮

井上馨
ボアソナード 両氏談話筆記

寒暖ノ換移後ノ

ボアソナード氏云足下近来ハ多忙ナリト奈レ然ト見舞ヲ惹ケリ
全云足下ヨリ頃日来外務ノ事ニ尽カサレタリト聞ク近頃稍閑暇ヲ得タレ
又云足下ノ我国ヲシテ尽カサレタル事件ニ付貴往星ハれ何
ボ云其事ヨリ全約改正ハ意外ノ結局ヲ得タリ第ヲ感賞ス必ニ依レハ
此変若シ実行セラレナバ日本国民ハ再ヒ二十年前ノ素勇ヲ取ラン一トハ想像ス
全回足下若シ予カ秘密ヲ守ルコトヲ代用カルハサラハ願ハ予カ為ナニ見込個
ヲ語ラレヨ足下ノ不備足トセラレタル点ハ何々ノ条件ナルカ
ボ云足下ノ予ヲ日本国ニ於ケル平素貴志勤カルヲ信スノ中ノ一人ナリ予ハ

特別
ワ3
7079

此度ニ付予ノ感慨ノ足ト云ヒ又ハ今ノ機会ヲ得テ喜ブ予ハ曾テ予ノ
持論ノ外務大臣並ニ青木公使ヘ「ヒヤボルト」氏ニ向テ屢々切直ニ陳述
シタレトモ予ノ意見ハ一ヒ採用セラレズシテ今日ノ結果ニ至リタハ予ノ甚タ慨憤
トシテ日本国ノ為メニ深ク哀痛スル所ナリ

○芳力又ハ威勢

三ツハ又栗塚有吾氏ヲ仲人トシテ司法大臣ニ意見ヲ述ベタルニ司法大臣ハ「其旨
趣ニ於テハ且談判ノ模様ハ以ツテ筆記ニテ差知スルヲ要スル」トノ意見ヲ以テ答ヘラ
レタリ予ハ日本ノ大臣ハ人ノ「エチケット」ナキヲ驚嘆セリ若シ政府ハ此ノ如キ
タラシメハ予カ従ト同意サルヲ必ス奮テ内閣ニ向テ一ノ問題ヲ提出サルベシ
予ハ自己ノ過ヲ認ムルヲ感情トシ此事ニ付日本ノ為メニ深ク忠実ナル意見ヲ以テ
外務省ニ助言シタルカ故佛国公使ヲ初メトシ各国公使ヲ甚シク嫌忌ヲ

蒙リ佛国公使ハ出発スルノ折予ハ新橋停車場ニ見送リタルニ佛国公使ハ別ニ
臨ミ予ニ向テ「ニヒ」ト一言ヲ吐カレタリ曰ク「足下ハ予ニ向テ多大ノ困難ヲ与ヘタ
リ」ト此時意太利公使ハ傍ニ在リ仏国公使ニ向ヒ「君ハアツナート氏ハ当然ノ
理ヲ以テ日本政府ニ助言サレタルナリ」ト謂テ予ノ為メニ覚醒サレタリ蓋シ模
国意国ノ二公使ハ予ト感情ヲ同ジスル人ナリ
予ノ不満足トスルハ改正ノ説ノ個条ナレトモ就中三ツノ重要ナル点ナリ
第一外国裁判官ヲ用ヒ且但獄中ノ多数トスル点ナリ
此裁判ハ公平ナルヤト云フヲ得ヘカラス其親近ナル外ニ偏頗スルニ普通人心ノ疑
必ナレハ通常此裁判ハ日本人ノ為メニ又利益ナルヤト訴訟ノ件ニ付看々平公
平ノ裁判ヲ得ス刑罰ノ保証ヲ蒙リタル日本人ノ外国人ノ犯ムヨリモ寧ロ政

府ノ国民ニ對シ此ノ如キ境遇ヲ与ヘんヿヲ迫ムんヿヲ要シ旧条約ニ従ヘ原告ヲ
件ノ限リ外国裁判ヲ受ケ且被告ハ日本国裁判権ニ従属しタんヲ以テ
日本ノ主利益ノ区域ハ狭隘ノ部分ニ過ギザリシ然ルニ改正草案ニ依レハ原告
タルト被告タルトニ拘ハラズ悉ク日本人ハ外国裁判官ノ勢力ノ下ニ従属サル
ヿヲ以テ其又利益ハ一般ノ部分ニ及ボスヿヲ
案ズルニ裁判長ハ亦外国人ヲ用ヒんヿヲ
求ム吾草案ニ裁判長ノヿヲ明言セズ然シテ外国裁判官改ニ委任セ
ル上ハ裁判ノ決案ハ必ズ外国裁判官ノ所見ニ傾クべし此ノ時ニ当テ裁判長ハ
其勢力ヲ特ム能ハざるべし
今又問フ外国裁判官ヲ任用スル個箇ニハ年期アリテ一時ノ便宜ニ出ツル

ヿヲ
求ム六十五年間ハ隨分長キ歳月ナリ今日ノ日本人民ハ宿才賢ヲ委度シタルハ
十五年乃ノ屈辱ヲ忍ブヿハ能ハざるべし但今屈辱ヲ忍ブヿハ之カ為ニ
理事ハ此望ヲ招キ列国旧条約ノ外国交際上ニ弱点ヲ来タしんカ為メニ
全国ノ騒動ヲ引起シタル無数ニ伝フヿヲ免レざるべし
第二ハ違勅ノ罪ノ外国人民モ日本裁判ニ……裁判ニ従フト雖
モ他ハ重罪軽罪共ニ外国裁判官多数ノ個箇ナル裁判所ニ於テ裁判
シ且ツ違勅ノ罪ハ百円以下ノ訴訟ノ日本裁判所ニ控訴ヲ許スヿナリ外
国人民ハ区市日本裁判官ノ裁判ニ服セズシテ其ノ上ノ裁判所ニ控訴スル
ヿヲ控訴ノ場合ニ於テハ日本人民ノ為メニ初審ニ於テ利益ナリし裁判モ

試験スベキ吟味

多クハ離テ敢テ許ト云フ微星ヲ招クカハシ遠輕罪ニ陥ル立国極ムベシ

第三条約ノ実行期ヨリ八ケ月前ニ日本各種法律並ニ外国政府ニ通知スルヲ此事ハ草案ノ趣意ニ準ト通知ニ止マリシムベケレハ外国公使ハ此条ヲ以テ外国政府ノ「ユキカシネーシヨン」ニ掛ルコトヲ願フヲ即チ日本国ハ其ノ主権ノ権ニ付外国ノ列傳ヲ受ケタル動揺カハ、意外ノ侯果ヲ来スベシ此意ハ尤モ又苦ム皇室等ノ件ヨリ寧ロ若シ今ニ今月日本ノ為メ勤務スルヲハ此條津通知ノ間ニ於テ「此條約ハ日本国ノ主権ニ拠リ実行スルガ」シテ他ノ外国ノ干渉ナカルベシ」ト確実ノ意義ヲ以テ外国政府ニ通知スベキノ意見ヲ述ヘントス

第四ノ足下ハ旧条約ト新草案トノ比較ニ於テ何レカ優カレリトセラレシヤ

ホ 第三 新草案ノ旧条約ニ勝ルト其ノ著シ何トナレハ旧条約ノ害ハ区域狭ク

ナレト新草案ハ又利益ヲ一般ニ全国ニ流セハナリ

猶此外ニ挙ケヘキアリ外国人但偏ノ商利所ハ全国ハ所ニ限ルヲ以テ日

本ハ外国人ニ対シ平等ノ待遇ヲ与ヘント雖ト所ノ商利所ニ呼出カレサルヲ得ス例ハ沖縄ノ人民ヲ海ヲ越ヘテ長崎ニ呼出サルヘ

アルヘシ此ノ如キ日本人民ノ為メニハ又利益ノ一事ナリ

第四 然ルニ足下ノ高案ニハ旧条約ヲ捨テ去ラハ

ホ 第五 第五ハ刑事ハ重罪ノミニ限リ外国人ハ外国領事ノ保護ヲ受ムベキ

ヲ提出シタリ

第五ノ稿案ハ採用サレズシテ今日ノ結局ニ至リタレハ日本ノ為メニ哀ムベク

痛々べ〻嘆スヘキノ極度ナリ

予ハ今日ニ於テモ仍日本ノ為メニ此ノ如キ不利益ヲ傍観スヘキ能ハス日本ノ中ノ志士ナル人々ハ決シテ責アル

天皇陛下ノ批准ヲ無ヘシトシテ空ク日条約ヲ保存セントスルノ題ノ一路ヲ取ルトモ足下ハ高等ノ地位ニ在リ且平常ノ未様ハ予ノ信用スル所ナリ

本国ノ為メニ未曾有ノ危急ニ際シ何等ノ考ヘカヲモナカルヘキ乎（此等ノ言語ヲ吐キ「ポアソナード氏」ノ顔色勃然トシテ憤怒ノ色アリ）且ツ又予ハ今日キ

ト激切ノ言語ヲ吐キシ了サシ

今ヲ足下ノ意見ハ伊藤伯ニ話サレタキ事

ナリ

ト云ヒ乎ノ勇ヲ決カタク想フニ伊藤伯ハ外務大臣ト同一意見ナレ

偽装会

今ヲ予ハ若シ秘密ノ約束ヲナシタルトキハ貴国ノ大事ナルヲ以テ足下ノ許可ヲ得テ今日ノ問答ヲ伊藤伯ニ報道セントス

ト云ヒ何ノ差支ナシ

又云足下ノ為メニ考慮スベキ足下若シ条約後刻ノ明細筆記ヲ見ルトキハ伊藤伯ノ秘書官ニ請ヒ直ノ一部ヲ借リ得テ予ト之ヲ討論シ詳細其利害ヲ足下ニ分解シテ然ハ後ニ又予ノ意見ヲ申ス一段アリノ十分ニ事ノ始末ヲ呑込ミ其上ニテ足下ノ意見ヲ以テ決定アリテハ為

ス可キ事ニハ都合宜シカラスベシ

右一段ノ通告仕候

ポ氏突然ニ向テ云足下ハ伊藤伯ノ「ブアンボーム」ニ赴ヤトセカ

予吾偶々病氣ノ故ニ辞シタリ

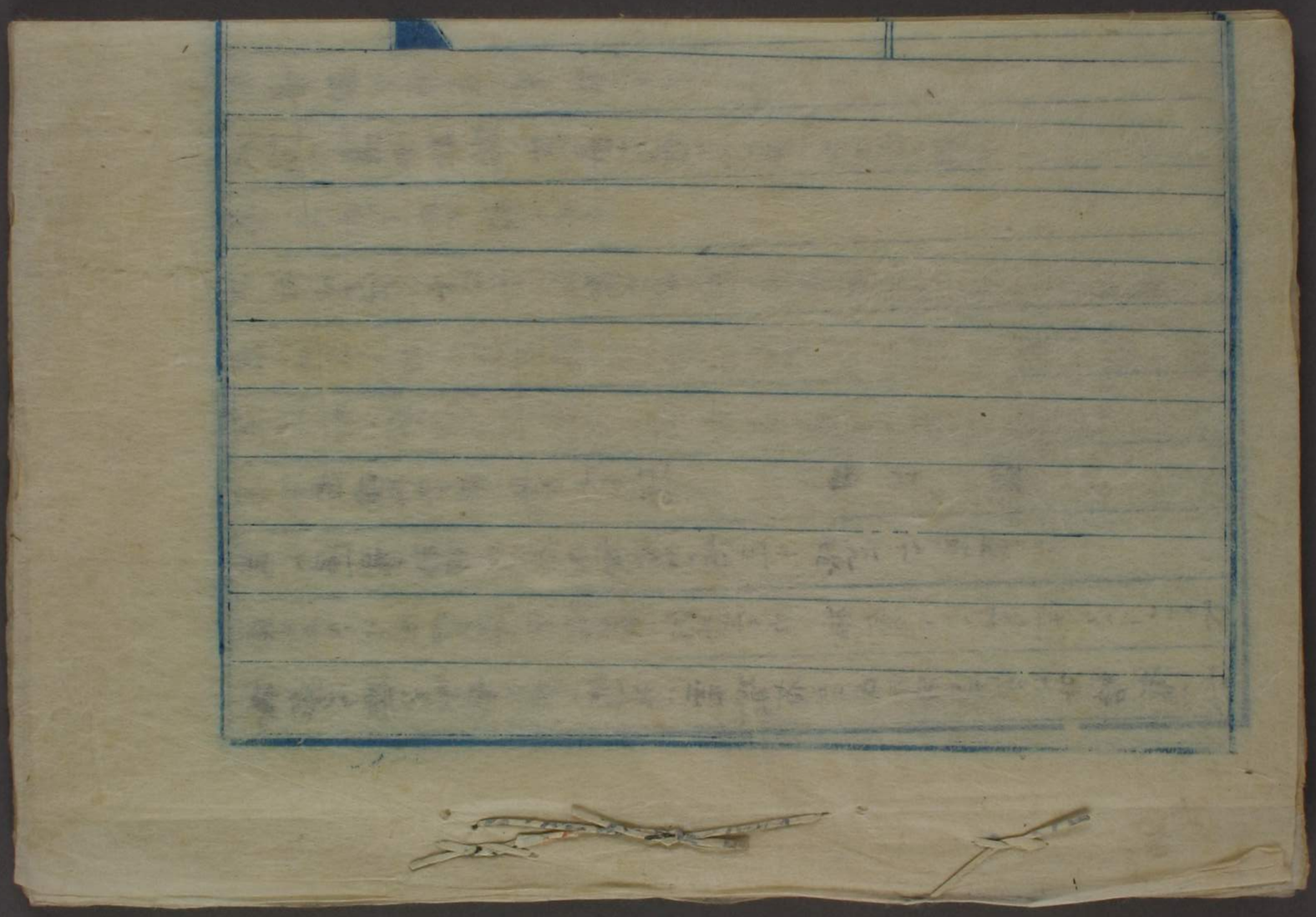
又河ノ鳥井坂邸ノ芝居ニハ赴カレシ事（井上伯ノ邸）

又病ヲ以テ辞シタリ

オ氏云ク足下ハ定テ予ト同感ナル故ニ能ト辞セラレタルナンカ予ハ近日宴会ノ席ニ行ノアン好マス日本国ハ外ハ権利ヲ減シ内ハ重ノ税ヲ徴ス故ニ前年晴皇哀痛ノ境界ニ沈淪セントスルノ時ニ当リ東京ノ都府ハ建築土木ト宴会トヲ以テ太平ヲ楽メリ予ハ今ハ聲譽ノ時ニ赤ス下ル能ハス各大臣ノ宴会ハ都テ之ヲ謝絶セリ

予ハ再会ヲ期シテ握手シ別ヲ告ケタリ

別ニ臨ミテ外務卿ヨリ「ボアソナード」氏ハ又云ヘリ何様伯ニ於テ予ニ面会ノ御希望ノ趣ニ付テハ予ハ栗塚有吾氏ヲ用トラレタシ外務省ノ人ヲ用トラレテハ必ラス此ニマデ且云ヘリ伯ハ吾カ機会アラハ等閑ニスルナカンシ

予ハ直チニ杉田氏ニ向テ秘密ノ約束ヲ懇ニシテ立去レリ

右明治二十年五月十日朝　井上　敬